



人獣共通感染症を知ってください



【人獣共通感染症とは】

細菌やウイルスなど病原体の感染により起こる病気を「感染症」と呼びます。多くの病原体は限られた動物種間のみ感染しますが、一部の病原体は動物から人に感染し病気を起こします。これが「人獣共通感染症」であり、世界保健機関（WHO）で確認されているだけで200種以上あります。

近年、世界中で環境変化や資源開発などにより人と野生動物の接触機会が増え、新しい「人獣共通感染症」が出現しています。これが「新興感染症」です。「新興感染症」は人にとって未知の病原体のためほとんどの人は免疫を持っていません。容易に人から人へ感染し、世界的大流行（パンデミック）を起こす危険性があります。

2019年パンデミックを起こした新型コロナウイルス感染症も「人獣共通感染症」かつ「新興感染症」であり、野生動物が保有していたウイルスが何かのきっかけで人に感染したことが原因とされています。

【口蹄疫は人に感染しますか】

口蹄疫は牛、めん山羊、豚など多くの動物種が感染します。人の感染はウイルスの誤注射や多量のウイルスに長期間暴露された場合などにまれに軽い発熱などを起こした事例がありますが、「人獣共通感染症」とはみなされていません。このように人には感染しませんが人や器具などに「機械的」にくっついて伝播し、家畜に感染する恐ろしい病気です。

【鳥インフルエンザは人に感染しますか】

鳥インフルエンザウイルスは簡単に人に感染しません。ただし、感染している鳥と直

接接触し羽毛やホコリに付着した多量のウイルスを吸い込んだ場合、まれに人に感染することがありますが、たとえ感染した鶏肉や鶏卵を食べても、加熱調理や胃酸によってウイルスが死滅し感染のおそれはありません。

ところが鳥インフルエンザウイルスが繰り返し人に接触する間に人に感染して体内で増殖し、人から人に感染するように性質が変わる（変異）ことがあります。また、豚は人と鳥両方のインフルエンザウイルスに感染することがあり、複数のウイルスが合体し強い感染力を持つよう変異することがあります。これが新型インフルエンザです。新型インフルエンザも新型コロナウイルス感染症同様パンデミックを引き起こすことが懸念されています。

【人獣共通感染症を防ぐために】

人と動物がともに暮らしていく中、人獣共通感染症を完全に防ぐことは難しいです。ただし、病原体を保有する野生動物など（感染源）を避け、飛沫や接触など病原体が侵入する経路（感染経路）を遮断し、感染した動物（宿主）を正しく扱うことで感染の輪を断ち切ることができます。農場の皆様は毎日手洗い、更衣、消毒など基本的な感染防止対策を行い、飼養動物に異常がないか注意深く観察することが大切です。飼養衛生管理基準は、家畜伝染病を防ぐ様々な責務について定めていますが、同時に「人獣共通感染症」や「新興感染症」の強力な防御対策となるため、しっかりと遵守していただくようお願いします。

（三松）